

世界でたったひとつの
ものを発見し、
発信する。
それが研究の魅力。

Role Model 02

大平慎一

大学院先端科学研究部准教授

大学教員
→ 博士研究員
→ 大学院（博士後期課程）
→ 大学院（博士前期課程）
→ 理学部

Profile おおひら・しんいち 1996年に福岡県立戸畑高等学校を卒業後、熊本大学理学部に入学。2000年に卒業後、同大学大学院自然科学研究科（博士前期課程）、その後、博士後期課程に進学。日本学術振興会特別研究員を経て同海外特別研究員としてテキサステック大学に派遣。その後、テキサス大学アーリントン校にて博士研究員。2009年に熊本大学に着任。

人・学問との出会い そして、研究の道へ

小さいときから科学が大好きで、近所の空き地でダンゴムシを集めてきたり、顕微鏡を親にねだって買ってもらい観察したりしていました。高校では、化学を暗記に頼るのではなく理論や現象をきちんと理解できるように教えていただけの先生と巡り会って、化学の面白さを知ることができ、大学は理学部化学科に進学することを決意しました。

大学では化学の講義や実験を通じて学んでいく中で、化学という学問の幅の広さ、奥の深さを感じとっていきました。大学卒業後は、高校の教員になろうと考えていましたが、現在の専門である「分析化学」と出会い、研究者への道を考えるようになりました。「分析化学」は、計算に基づく理論の理解やオリジナルな化学の場を作り出す加工、化学物質に特異的な性質を電気的にとらえるための工夫やコンピュータによるデータ収集など、私の好きな要素がたくさん。実際には学术论文を調べたり、研究内容をまとめたりと、私にとっては苦手なことも多いと研究は成り立ちませんが、研究室配属が決まった頃には、博士後期課程への進学や研究者になることを決意

していました。

オンリーワンを生み出し、世界へ発信できる これが研究の醍醐味

学生時代は、昼は学び、夜は塾や予備校の講師として働いて学費を稼ぐ生活を送ってまいりました。入学した当初は真面目なだけの学生でしたが、大学内やバイト先などで様々な方々に出会い、語り合う楽しさ、苦楽とともにし物事を成し遂げることの大変さと得られる達成感を知ることで、人間として大きく成長したと思います。学生時代に学んだことは、今の研究生活に大いに活かされています。余談ですが、昔からパソコンのキーボードをたたく力が強いのですが、特に機嫌が悪くなるとエンターキーを押す音が鳴り響くらしく、このことを私の結婚式の2次会で研究室の先輩が披露され、妻が「今も変わらない」と言っています（笑）。

現在は、化学物質の分離や精製、検出の方法を探求する分析化学を基盤に自然界における現象の解明に取り組んでいます。特に溶存イオンについては、分析のための前処理法から検出法まで様々な手法を確立してきました。現在は、土壌に含まれるクロム種を人に必須

な三価クロムと発がん性の指摘される六価クロムに分離する手法を確立し、自然由来で生じる六価クロムの由来の解明に取り組んでいます。「オンリーワンの成果を生み出していくこと」、これを「世界に向けて発信していくこと」がこの仕事の魅力だと思います。またその過程で、研究を通じて学生の成長を感じ取れること、これが一番のやりがいです。

私生活と仕事、すべてが人生の基盤である

1人の人生、すなわちライフの中には仕事はもちろん、プライベートな部分もすべて含まれているというのが基本的な考えです。常に仕事のことも考え、常に家庭のことも考えて日々の生活を送っています。その時々で、何をすべきか、できることは何かを判断していけば、最終的に最適ところでバランスがとれてくるのではないのでしょうか。私自身もそうですが、学生のみなさんも今まで家族をはじめ、多くの人にお世話になったり、影響を受けたりして成長することで今の自分があるのだと思います。このことを常に忘れず、感謝の気持ちを大切にしてください。そして自分自身でも、常に成長し続けることを心がけてください。



私の宝ものである“ゆかいな子どもたち”

10年後の
目標は？

世界で通用するオンリーワン・ナンバーワンなものを生み出していく。今と同じようにその日の出来事をお互いに話しあえる家族でいること。

気分転換は芝刈り・草刈り・洗車（実は綺麗好き）